



熊事研会報

第 153 号

熊本県学校事務研究協議会
発行人 会長 宮崎 文子
編集代表 研究部長 山本 晋也

～目次～

- 事務局の活動を紹介します
- 新設事務センターへ取材に行ってきました
- 熊本県公立学校事務職員協会秋季研究会に行ってきました
- 第47回熊本県学校事務研究大会のお知らせ
- 令和6年度版学校事務必携発刊の御案内
- あとがき

事務局の活動を紹介します

6月の研究大会で研究部の構成や活動内容は紹介させていただきましたが、「事務局ではどんな事をしているんだろう」と疑問に思っている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

事務局には以下のように3つの役割があり、熊事研の活動を支えています。今回は事務局の構成や活動内容を御紹介したいと思いますので御覧ください。

1 事務局長より

令和5年度の事務局は会長、副会長、事務局長、事務局次長、事務局員7名の計11名で活動しています。事務局長が全事研や理事会、各組織との連絡調整といった渉外関係、事務局次長は議案書や九事協、役員間の連絡調整などを行い、事務局員は3つの担当に分かれ、熊事研運営に携わっています。堅苦しそう、大変そうとのイメージもあるかと思いますが、お互いでサポートし合いながら、楽しく活動しています。会議で集まって一番に決めるのはその日のランチ場所です(笑)

2 各担当の活動内容紹介

- ① 人数
- ② 業務内容
- ③ 事業部から一言



今年度は
このメンバーで
活動しています！

【 総務 】

- ① 2名
- ② 機関会議に関すること（立案、資料集約、会場確保等）、文書管理・保管など
- ③ 会場借用や会議資料取りまとめなど、熊事研全体の動きを見ながら、毎回勉強させていただいています。他地区の先生方とつながることができ、自身にとってもプラスになっています。

【 事業 】

- ① 3名
- ② 県大会に関すること（企画、立案、運営全般）、研究部との連絡調整
- ③ ここ数年のコロナ禍で「参集型の研究大会に参加したことはあるけれど、運営に携わるのは初めて・・・」という役員が多い中、事業部でもお互いに知恵やアイデアを出し合いながら、大会計画をしています。「参加してよかった！」と思ってもらえる大会になるよう、研究部と協力して進めていきます！

【 会計 】

- ① 2名
- ② 会計（一般会計、県大会会計、全事研会計、全事研準備金会計）、組織の厚生に関すること
- ③ 初めて役員になりましたが、会計業務を通して熊事研という組織の活動全体を見ることができました。自分一人だけで業務を抱えるのではなく、周りの皆さんが協力してくださるので、とても安心して活動ができています。

新設事務センターへ取材に行ってきました

令和5年4月に御船町学校事務センター（以下 センター）が新設されました。そこで今回はセンターにお邪魔し、組織構成や活動目標などセンターの概要についてお聞きしたほか、実際にセンター業務の様子を見学させていただきました。取材した内容をまとめましたので御覧ください。

1 御船町学校事務センターについて

組織の概要	<ul style="list-style-type: none">・ 令和5年4月1日設置（県内では21番目の設置となる）・ 6つの小学校と1つの中学校で構成され、拠点校は御船小学校・ 御船小学校会議室で、月2回程度、14時～16時40分に実施
グループの構成	センター長（1名）→給与・旅費グループ（3名） ↓ 総務・財務グループ（4名）
センターの目標	<p>【センターの目標】</p> <p><u>効率的な事務処理の工夫により、各校の事務の平準化を図るとともに、子どもたちや教職員が安心して活動できる環境を組織でつくる。</u></p> <p>【各グループの目標】</p> <p>給与・旅費グループ：チェック体制を向上させるための基礎作り 総務・財務グループ：町内の学校事務の仕事量の平準化</p>

2 課題解決に向けた取組

センター長の本田 繭巳先生によると、法整備以外のスタートが新年度になってからだったため、今年度はセンターの円滑な運営に向けた下地作りを進めながら、来年度につなげていく活動を行っていききたいと話されました。そのために「令和6年3月に目指す姿」を定め、日々取組を進められています。

【令和6年3月に目指す姿】

- ① センターの環境が整備されている
- ② 組織が機能している
- ③ スキルとモチベーションがアップしている
- ④ センターになってよかったと思える



8月の取材時点での達成状況と課題を整理されており、今後の対策を練られていました。

目指す姿	達成状況（R5.8 時点）	課題
①	<ul style="list-style-type: none"> ・6月補正予算要求での要求額が全て議会通過。 →整備を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議室でセンター業務を行っているため、常設が難しい。 ・次年度予算要求時までに来年度必要な予算の把握を全てできるか不安。
②	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎の目標を定め、短時間ではあるが毎回グループ業務の時間を設けることができている。 ・一括でできることが増え、費用や時間の有効利用ができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月2回の実施では点検業務に時間を割かれ、グループ業務の時間を充実させるににくい。 ・グループ分けを4月に急遽決めた為、分け方が適正だったか検証が必要。
③	<ul style="list-style-type: none"> ・先進地視察を行い、具体的なイメージを持つことができた。 ・点検を2回行うことで多くの事例に触れ、意欲向上につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・始まったばかりでセンター業務の良さが不明で、取り組み方が分からない。 ・経験年数が短い職員が多いためか、自校の業務の精度を上げることを望む傾向にある。
④	<ul style="list-style-type: none"> ・加配が配置されたことで、他校へのフォローに行くことができた。 ・参集する回数が増えたことで、点検業務以外の話や、業務の進捗状況の確認ができる時間ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・7人をグループ分けするとグループが少人数になってしまう。 ・回数が多い、又は少ない。（意見の相違） ・まだ必要性を感じられない人もいる。
今後の対策	<ul style="list-style-type: none"> ・デスクのフリーアドレス制を基本に、現在利用している会議室を有効活用していくことを考える。① ・時間確保については、次年度から回数を増やすことで内容充実を図る。② ・センター活動費を活用し、先進地への視察研修を行う。③④ ・出前研修を利用し、今後必要な知識を得る。③④ 	

今後は、予算の集中管理や文書の一括受付、教材費の一括徴収の実施により、業務の効率化・平準化・負担軽減を図ることで、センターで学び、各学校で輝ける事務職員の育成を進めていきたいと展望を述べられました。

御船町学校事務センターの皆様、センター設置1年目の慌ただしい中、快く取材を引き受けてくださり本当にありがとうございました。「共同実施から学校事務センターに体制が変わると、こんなことが変わるのか！」と具体的にイメージすることができました。



公立学校事務職員協会秋季研究大会に行ってきました

公立学校事務職員協会は熊本県公立中学校・高等学校・特別支援学校に勤務する学校事務職員で構成される組織です。協会ではどのように研究大会が行われているか気になる方も多いかと思います。ジョブローテーションで義務制から県立へいく人も多いですね。

そこで今回は、10月20日に開催された秋季研究大会へお邪魔させていただきました。公立学校事務職員協会の皆様、今回の出張取材に応じていただきありがとうございました。本大会は参集、ライブ配信及びオンデマンドでの視聴によるハイフレックス形式で開催され、会場は参集を選択された会員の方で埋まっていました。研究大会の内容をまとめましたので御覧ください。

日時：令和5年10月20日（金）13:00～16:25
参集会場：水前寺共済会館



- 1 開会
 - (1) 会長あいさつ
 - (2) 熊本県教育委員会あいさつ
 - (3) 熊本県公立高等学校長会あいさつ

- 2 熊本県教育委員会講話
演題「チーム学校の一員として」

県立学校教育局 重岡 忠希 局長

まずご自身の経歴を話され、社会に出る前の最後の教育に関わりたいという思いから、義務

制から県立へ校種変更されたそうです。文科省での勤務を経験後、学校人事課で高校統合再編の業務に携われ、統廃合の説明会では保護者や地域からの厳しい声を受ける経験もされたそうです。県立高校への進学を選択する生徒を一人でも増やしたいという思いを持ち、郡部の生徒へも充実した教育を行き渡らせるための施策に取り組みたいと、今後の展望を述べられました。

そして、今後学校事務職員に求められる資質・能力として、「学校全体を見渡し問題を発見し解決する思考力」を挙げられました。教員とは違う立場の事務職員だからこそ気づけることがあり、常にアンテナを張ってちょっとした違和感に気づき、教員と情報共有することで問題の早期発見・解決に繋げることができると説明されました。具体的には、教員と生徒の距離感や不祥事、いじめ等について第三者的視点を持って学校を見渡し、生徒との普段の会話で分かったことや、教員が気付かない部分に気付いて情報共有してほしいと仰いました。

これを踏まえて、学校事務職員に対して求めることとして、「チーム学校の一員としての人間力及び専門性を磨く」ことを挙げられました。「人間力を磨く」については、学校事務職員も学校では「先生」と呼ばれる存在であることを意識し、学校（チーム）の一員という自覚を持って業務にあたってほしいと述べられました。また、県職員としての意識を持ち、県の施策を把握し自分ごととして捉え、自らの業務に繋げてほしいとも仰いました。

「専門性を磨く」については、教育行政職は学校現場と行政の双方に精通できる専門職であり、関係法令や条例、規則など法的根拠を意識して業務に当たってほしいと述べられました。また、自校の教育目標等についてきちんと理解していることも適切な業務に繋がると仰いました。

最後に、生徒数減、寮の必要性、特別支援学校在籍生徒の増加などの県立学校の現状に触れた上で、今後の魅力ある県立学校づくりの展望について話されました。

3 実務研修 I

演題「実務研修 2023AUTUMN 定年延長と給与制度と私」

学校人事課 給与班 窪田 雄介 主事

令和4年10月配布の「情報提供・意思確認制度に基づく情報提供資料」を基に説明が行われました。概要は以下のとおりです。

- ・定年年齢が段階的に60歳→65歳へ 数年間は奇数年に定年年齢が上がり、偶数年に退職
- ・役職定年制：管理職は原則60歳まで 管理監督職勤務上限年齢調整額の支給
- ・61歳の年度からの給料月額は「7割水準」
- ・退職手当：退職手当基本額の計算方法の特例の設定
- ・定年前再任用短時間勤務制の導入
- ・情報提供及び意思確認が必要

定年延長後の給与額や退職手当の計算方法について詳しく解説されました。今後は、職員から退職手当に関する質問が増えることが予想されるため、学校でも退職手当の計算ができることが望ましいと述べられました。また、職種毎の61歳年度以降の職位の例についても説明がありました。

4 実務研修Ⅱ

演題「chromebook の活用について」

教育政策課 教育情報化推進室 葉玉 英世 指導主事

県立学校で使用されている chromebook を実際に操作しながらの研修が行われました。紙からデジタルへの移行が進む中、学校事務職員の業務改善に繋がるような端末の活用方法として「Google keep」というメモ機能の紹介をされました。写真から文字の読み取りや、他の職員とのリストの共有方法など、業務を効率化する機能を実際に体験しました。県立学校では職員にタブレットが1人1台配置済みで、本研修でも自身の端末を持参し研修を受けられていました。

最後に電子情報や個人情報の取扱いに関する注意喚起をされました。



第47回熊本県学校事務研究大会のお知らせ

各地区理事より案内を配布しておりますが、改めてお知らせいたします。久しぶりの分科会開催のため、手探り状態で準備を進めているところです。事務局と研究部全員で力を合わせて企画していますので、たくさんの御参加をお待ちしております。

期日 令和6年1月26日（金）

場所 熊本市市民会館シアーズホーム夢ホール【全体会、第1・第3分科会】
熊本市国際交流会館【第2分科会】

日程 9:30～9:50 全体会受付
10:00～10:20 開会行事
10:20～10:50 研究部提案
10:50～11:00 休憩
11:00～12:30 全体会講演
12:30～12:30 昼食
13:40～14:00 分科会受付
14:00～16:30 分科会
16:30 閉会



令和6年度版学校事務必携発刊の御案内

令和6年度版学校事務必携発刊の御案内を先日配布しております。令和6年度版も会員の皆様の「仕事の友」となるよう現在作成を進めております。令和4年度版からは熊本市の給与及び旅費に関する事項についても「資料編」として掲載しており、熊事研会員外の方にも御購入いた

だいております。注文製作となっておりますので、申込み忘れがないようお気をつけください。皆様の御購入お待ちしております。

【令和6年度版学校事務必携 注文受付スケジュール】

- | | |
|-----------|--------------------------|
| 12月22日（金） | 注文受付締切り |
| 2月初旬 | 公費注文分の請求書類を発送 |
| 2月22日（金） | 入金締切り（入金方法は各地区の研究部員より連絡） |
| 3月上旬 | 各地区の研究部員へ納品 → 購入者へ配付 |



あともがき

あっという間に時間が過ぎ、気付けば令和5年も終わろうとしています。皆様にとって今年はどうな一年だったでしょうか。私は今年度から研究部員をさせていただき、色んな人に出会い知らなかった世界を学ぶ一年になりました。

来年1月には研究大会が開催されます。事務局と研究部で一生懸命企画・準備しています。皆様の御参加を会場でお待ちしております！

最後になりましたが、本会報を発行するに当たり、公立学校事務職員協会様及び御船町学校事務センター様には、お忙しい中取材の申し出を快く引受けていただき感謝申し上げます。拙いレポートですが、少しでも現場の雰囲気をご会員の皆様に感じていただけたら幸いです。

熊本県学校事務研究協議会 研究部 情報調査班 会報担当

